

## 事前評価個表

整理番号	62
------	----

地域（地区）名	<small>きなん</small> 紀南地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	和歌山県	対象市町村	田辺市他9市町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>紀南流域は、本県の南部に位置し、県土面積の約半分を占め、森林率は89%で豊富な森林資源に恵まれ、当地域の林業は主要な産業として栄えてきた。特に、スギ、ヒノキを主体とした人工林率は64%と高く、51%が10齢級以上の林分であり、3箇所の木材市場に加え59の製材所が存在し、素材の受け入れ体制が整っている。</p> <p>また、林道密度は4.68m / haと県平均より高いが、起伏量の多い急峻な地形に起因し路網設備は不十分であることに加え、5 ha未満の森林所有者は79%、不在村者の所有森林面積割合は48%であるため、森林を集約化するうえで大きな課題の一つとなっている。</p> <p>このため、集約化を進めていくためには、施業意欲が低下している不在村所有者や5 ha未満の森林所有者を取りまとめて提案型集約化施業を普及させ、架線系の高性能林業機械の取り入れや路網設備の共同化、合理化を図り、搬出間伐を主体とした森林整備を実施することで、森林機能の回復・増進や林業経営の改善に向けた木材の安定供給体制の確立を図っていく。</p> <p>搬出間伐などの素材生産に当たっては、紀州材生産販売プランに基づき、立木ストック団地を設定し、機械化を推進するとともに路網密度60m / haを目標とした基盤整備を行うことで増産を図っていく。</p> <p>また、森林の持つ多面的な機能を発揮させるため、間伐等の積極的な推進、長伐期化の推進、造林未済地の減少を図り、森林資源の循環と保全を両立した林業の振興を図る。</p> <p>これらの方針に基づいた事業実施により、適切な森林の配置を進めるとともに齢級構成に応じた森林整備やそれを推進するための基盤整備を適正に実施し、森林の有する多面的機能の発揮を図ることができる。また、美しい森林づくり基盤整備交付金や森林基盤整備事業を組み合わせることで、事業主体となる市町村、森林組合及び林業事業者等が互いに連携しながら計画的に集約化施業を進めていくことにより総合的な森林整備を図る。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：12,076ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：3,926,701千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 10.39 (総便益(B) = 63,970,873千円、総費用(C) = 6,156,311千円)</p>
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林整備の緊急性等からみて事業実施の必要性が高い</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林の有する多面的機能の高度発揮や、立木ストック団地の形成、搬出間伐による木材生産量の増加を図ることができる</p> <p>計画的かつ集中的な森林整備を本事業で実施することにより、森林吸収源対策を推進することができ、森林所有者の収益向上や林業の活性化に資する「森林施業の集約化」「間伐材の利用促進」を図ることができる。</p> <p>このため、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

## 便 益 集 計 表

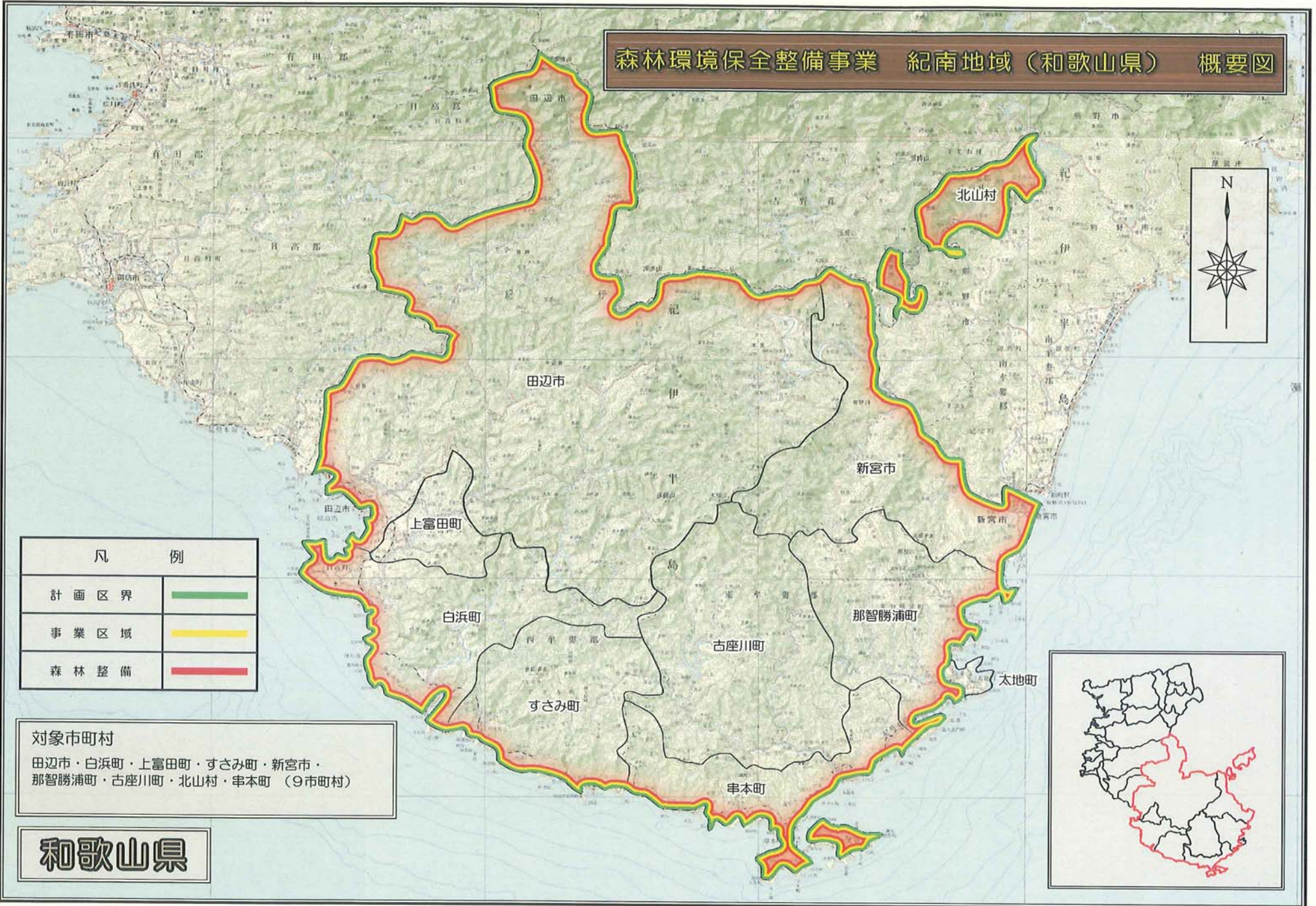
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 紀南

和歌山県  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	21,128,135	
	流域貯水便益	7,026,408	
	水質浄化便益	11,995,437	
山地保全便益	土砂流出防止便益	12,624,618	
	土砂崩壊防止便益	7,837	
環境保全便益	炭素固定便益	3,834,069	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	7,354,369	
総 便 益 (B)		63,970,873	
総 費 用 (C)		6,156,311	
費用便益比	$B \div C = \frac{63,970,873}{6,156,311} = 10.39$		

森林環境保全整備事業 紀南地域（和歌山県） 概要図



凡 例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	

対象市町村  
 田辺市・白浜町・上富田町・すさみ町・新宮市・  
 那智勝浦町・古座川町・北山村・串本町（9市町村）

**和歌山県**